

ハッピー 子育てひろば



☆プロフィール☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医

みなさん、こんにちは。今や子育てひろばを書いている私ですが、自分が子育てをしているときはうまくいかないことも多かったです。大きくなると親が決めた「ルール」に反抗し、守らないこともあります。ご飯の時間になって何度呼んでも食べに来ないということがあったので、2回声をかけて来ないなら先に食べる。後から来たら自分でご飯や味噌汁を用意し、おかすが冷めていたら温め、自分の皿も洗うことにしました。すると自分がイライラすることもないですし、子どもと一緒に食べるか、仕事が増えても後にするかは本人が決めることになります。親の思い通りいかないことも増えますが、お互い機嫌よく過ごせるよう臨機応変に考えていくことは大事だなと思います。

今回は ④ 適切な期待感をもつ です。

大切にしてほしい「子育て5原則」

- 期待には3つの方向があります。
- 親が、子どもに対して持つ期待感
- 子どもが、親に対して持つ期待感
- 親が、自分はこうあるべきという期待感

親が、子どもに夢や期待をもつことは大事です。親の期待は、時に子どもを大きく伸ばす力になるし、逆にどうせだめだというマイナスの期待や、子どもが望まない期待は子どもの伸びる芽を摘んでしまうことにもなります。適切な「期待」の仕方、難しいですね。

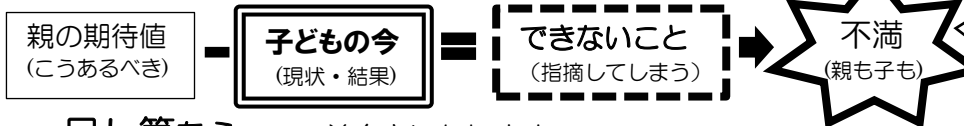
大事なのは、今の子どもをどう見るか、そして次に上るべき段階は何かを正しく理解することです。

子どもは親に「自分が望んだことや選んだこと」を認め、一歩踏み出すことを「応援されたい」のです。



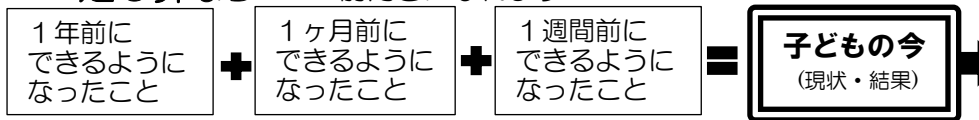
★ 子どもの「今」をどう見ますか。

引き算すると・・・不満が残ります



他の子と比べて、「できないこと」を指摘して責めると、やる気を失い、チャレンジをやめてしまいます。

足し算なら・・・前向きになれる



「成長したこと」に注目すれば、親も子も前向きになれる。

子どもが生まれた時は、床にたくさんの積み木がばらまかれている状態です。子どもと目が合った時、笑った時、首が座った時、立ち上がった時。一つ一つの発達には積み木を上重ねていく作業と同じです。人は誰でも積み木を一つずつ積み重ねて生きています。しかし、私たちはそんな積み木を認めるよりは、まだ積み上がっていない積み木、隣にある高く積み上がった積み木が気になって仕方ありません。でも、それを見ないと決めたら、親自身のあなたがとても楽になります。目の前の、あなたの子どもの「積み木」だけを見て、「よくがんばったね。」と伝えましょう。子どもは自分の積み木が好きになります。それが「自信」です。すると、子どもは安心して、もう一つ積み木を積み上げてみようと思います。それが「やる気」です。その積み木を見守り応援しましょう。子どもに伝えるべきことは、「あなたは頑張っている。一生懸命生きています。あなたの積み木は特別だよ。」です。